

第7話 さらば日光！

「大好きだよ、また行こうね、どっかにいっしょに」の巻き

日光土産はめぐさんお勧め、老舗和菓子店「鬼平」の水羊羹です。お店に入ると誰もいません。声をかけるとおじいさんがお出ましになりました。どこもかしこもゆったりしている日光、昔はどこもこうだったのです。私は水羊羹と栗蒸し羊羹、玉垂れの滝というお菓子を購入しました。いずれも大変美味しいものでした。

夕暮れ迫る日光に別れを告げて宇都宮目指して最後のドライブ、名物餃子が待っています。が例によって、記憶なし。(穏やかな振動と静かに流れるジャズ、この環境で夢の世界へ誘われずに済む方法はあるのだろうか。篠ちゃんと麗さんは起きていたのだろうか。まずいなあ。) 申し訳ありませんでした、めぐさん。

高速の途中で目を覚ましました。「降りるところを間違えたかな」なんてめぐさんの独り言も聞いていました。車内に漂う緊張感、「大丈夫だった」良かった。さあ時計と睨めっこです。6時を回って1番のお勧めの餃子店は間に合いません。お目当ては、「みんな」市内に入るとさすがの車の量、間に合うでしょうか。篠ちゃんのリードで、応援歌をうたいます。「みーんみん、みーんみん、お猿さあんだよー」お次は「みん、みん、みん、蜂が飛ぶ」窓は閉まっていますから遠慮なしに大声を張り上げます。子どもじみた悪戯気分にお腹を抱えているといつのまにか「みんな」に到着。セーフです、しかも長蛇の列、期待は空腹に拍車をかけ、店から漂ういい匂いに思わずくらくらしてしまいます。観察してみると若い男性などは、目の前に空いたお皿を何枚も重ねています。メニューは3種類の餃子(焼き、揚げ、水)、ライス、飲み物だけ、完全な餃子専門店。私たちは3種類の餃子を1皿ずつ注文しました。1皿6個で220円！うまい安い、早い。私は3皿ペロリ、食べきれなかった餃子はお土産用の箱に詰めてくれます。めぐさん息子さんへのお土産に10人前ご注文、男の子は恐ろしい程食べるのです。長蛇の列はまだまだ続いていますから、てきぱきと店を後にしました。

場所をゆったりしたファミレスに移して、食後のコーヒーのつもりが、サラダセットまで頼んで、ケーキとパンとサラダのデザート。麗さんが、旅行中の出費の残りを分配してくれます。会計係ご苦労様でした。篠ちゃんの驚くべき社交術のお陰で旅の楽しさは倍増しました。めぐさん、お一人での運転とガイド役素晴らしかったです。ありがとうございました。午後9時半、下りの新幹線に篠ちゃん麗さんと並んで座って、それぞれの家路につきました。

ついに落ちの時間となりました。お待たせしました。一夜明けて麗さんから悲しみに満ちた2行のメールが届きました。「デジカメの画像の処理に失敗して、全てなくなりました。ごめんなさい。」

大好きだよ、また行こうね、どっかにいっしょに。

完

